

# 動物人間関係学

		シラバス(概要)
履修条件	自律学習修了し理解度確認課題提出した者	人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深め思慮する。さらにヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIOの概念から、動物介在療法(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動がなされているか知る。動物看護師は診療現場のみならずあらゆるシチュエーションにある動物に関心を持ち、個々の動物の看護を行う必要がある。動物(ペットだけでなく使役動物、野生動物)を取り巻く環境の遷移を思慮し、動物と人の関係、様々な影響について理解を深める。
ユニット	高位平準動物看護概論	
科目名	動物人間関係学	
単位		
履修時間	ユニット30時間中の3時間	
回数	10回中の1回	
授業形態	対面授業	評価方法
作成者		本講座3時間目に対面学習確認テストを実施する。また、10回目授業時に最終確認テスト(8教科分:五択問題)を受け、60%以上正答の受講者には修了証が発行される。
教科書	動物看護コアテキスト1 人と動物の関係(ファームプレス社)	
教科書		

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	人と動物の関係の歴史	1.シラバスとの関係	人と動物の関係学の成り立ちについて知る	
		2.コマ主題	人と動物の関係の歴史を知ることにより、動物人間関係学の成り立ちを理解する。	
		3.コマ主題細目	遺跡や生物的、文化的な家畜化を知ることにより、現在の伴侶動物との関係の基盤と一緒に生活する意味を理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	人と犬、猫、ウマの関係の歴史を紐解くことにより、人と伴侶動物の新たな関係を知ることができる。一緒に生活する意味を考える。	
		5.次コマとの関係	人と動物が共に生活をする中で、動物が人に及ぼす影響について学ぶ。	
2	動物が人に及ぼす影響	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす生理的、心理的、社会的効果を理解し、現代における役割を知る。	
		2.コマ主題	動物が人に及ぼす効果について知る。	
		3.コマ主題細目	二つの効果があるとされている。人の心身の健康をもたらすものと、社会的効果としては人間社会における交流や関係性の交流、促進があることを学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	動物が人に及ぼす効果として、生理的、心理的、社会的なものがあることを知る。また、人の作業のために家畜化され用いられてきた動物の存在を知る(使役動物、補助犬、介在動物)。自律学習で学んだ知識を基にして、動物介在活動、動物介在教育、動物介在療法の現状を知る。	
		5.次コマとの関係	さまざまな人と動物の関係を学ぶ。	
3	さまざまな人と動物の関係;まとめ	1.シラバスとの関係	子供や高齢者などさまざまなタイプの人と動物の関係と、得られる効果を理解する。	
		2.コマ主題	子供と動物の関係、高齢者と動物との関係を知ることにより動物が人に与える影響について、理解を深める。	
		3.コマ主題細目	言葉が話さない動物と関わるために、子供は動物のボディランゲージなどを読み取る必要があるので子供の発育にとって動物は欠かせない存在となる。高齢化が進み絶対的に高齢者が増加する中で動物との関係を考え、知る。	
		4.コマ主題細目深度	子供の発達過程において各過程に必要な人との関わり、社会との関わりがある。動物との関わりが子供にとって重要であることが示されているので、その詳細を知る。また、高齢者や犯罪を犯した人と動物との関係がどのようなものか、を知り知識を深める。	
		5.まとめと確認テストの実施。アンケート記入。		